

ら い ふ

L I F E

松下記念病院

Vol.34

夏号
2016



診療科
見学note

腎不全科

● 医学カンタン講座
認知症 Q&A

● ホストピ
心臓病教室 / 糖尿病教室

● news
新入医師紹介

● News Spot
「患者支援連携センター」と
名称を改めてスタート

● 健康コラム
食中毒予防



腎不全科の診療内容

腎不全科には泌尿器科医と内科医がそれぞれ2名ずつ計4名の医師が常勤しており、慢性腎臓病の治療から透析療法まで、腎臓に関わるすべての病態を内科や外科の領域にとらわれず診療しています。

内容別に4つの部門に分かれて診察しており、診療日時は腎臓外来(月水金)、血液透析外来(毎日)、腹膜透析外来(火木)、アフェレーシス外来(適時)で、場所はすべて透析室の中にあります。

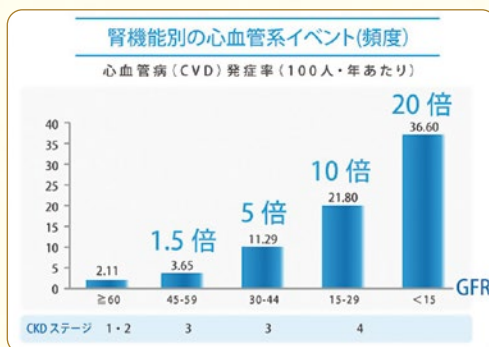
慢性腎臓病とは

慢性腎臓病とは、慢性に経過するすべての腎臓病を示します。

あまり耳にしないかもしれませんが、日本腎臓学会の報告によれば患者さまの数は1,330万人(20歳以上の成人の8人に1人)いると考えられ、新たな国民病ともいわれています。生活習慣病(高血圧、糖尿病など)や、メタボリックシンドロームとの関連も深く、誰もがかかる可能性のある病気です。

腎臓は体を正常な状態に保つ重要な役割を担っているため、慢性腎臓病によって腎臓の機能が低下し続けることで、虚血性心疾患や脳血管障害などを引き起こす可能性が高くなります。

慢性腎臓病は、e-GFRという値で5つのステージに分かれています。ステージ3以上(e-GFR60未満)の患者さまについては、将来透析が必要にならないように最も力を入れて取り組んでいます。



GFR (mL/min/1.73m ²)	人数 (x 万人)	%
60 以上	8.393	81.3
50~59	1.508	14.6
40~49	342	3.3
30~39	56	0.5
15~29	16	0.2
15 未満 (透析は除く)	4	0.1
合 計	10.319	100

GFR<60 1,926 万人
GFR<50 418 万人

(日本腎臓学会の報告より引用)

腎不全科に関わる



Q. 血尿の場合は、泌尿器科か腎不全科かどちらに受診すればいいですか?

A. 血尿だけならば、まず泌尿器科を受診して尿路結石や腫瘍がないことを確認し、泌尿器科の病変がなければ腎不全科に照会してもらってください。

腎臓外来

蛋白尿や血尿などの検尿異常から慢性腎不全まで様々な慢性腎臓病患者さまを受け入れています。

- ・腎臓専門医による診察（月水金）
- ・腎機能の保持が目的
（栄養指導・血圧管理・腎性貧血のコントロール）
- ・腎生検は1泊2日の短期入院で施行
（ネフローゼ症候群など）



腎不全科(透析室)

血液透析(HD)外来：20床

保存的治療にもかかわらず末期腎不全となった患者さまの血液透析療法を行っています。

- ・1回4時間が原則
- ・月水金は、午前・午後の2クール
- ・火木土は、午前のみ1クール
- ・透析導入と合併症の治療が主体
⇒状態の落ち着いた患者さまは、ご自宅に近い
送迎可能な透析クリニックを紹介
- ・その他：透析用のシャント手術、二次性副甲状腺機能亢進症の手術(PTX)などを積極的に実施

腹膜透析(PD)外来

末期腎不全の治療のひとつで、導入から外来での管理まで行っています。

- ・基本的に在宅透析
- ・通院は月2回（社会復帰が容易）
- ・食事制限がほとんどない

生活の質が維持されやすい特徴があり、積極的に社会復帰をめざす患者さまにおすすめしています。

アフエーシス外来

当院は大阪でも数少ないアフエーシス学会の認定施設を取得しています。

アフエーシスとは、血液中から体に害のある物質を除去するという意味で、お薬や手術以外の第3の治療法ともいえます。膠原病の原因となる免疫物質や難治性の神経疾患において標的抗体を効率よく除去することができます。

さらに、最近増加傾向にある潰瘍性大腸炎や下肢の閉塞性動脈疾患などの治療や、劇症肝炎の血漿交換療法なども内科からの依頼を受けて随時行っています。



(免疫吸着装置)

Q. 透析患者ですが、海外旅行は可能ですか？

A. 血液透析患者さまの場合は、国内旅行ならば透析施設を予約することで可能ですが、海外旅行はなかなか困難です。頻繁に海外へ行かれる方は腹膜透析を選択された方が賢明です。

Q. 将来、腎移植を考えていますが当院でも可能ですか？

A. 残念ながら当院での腎移植はできませんが、移植外科のある大学病院を紹介させていただきますので腎臓外来でご相談ください。

認知症 Q & A

認知症
って？

認知症は、“単なるもの忘れ”と違って病気です。そして誰もがかかる可能性がある、とても身近な病気の1つです。

物忘れと認知症とはどう違うのですか？

物忘れには病的なものの忘れと、病的でない物忘れがあります。

健康な人でも健忘といって、うっかり何かを忘れてしまうことはよくあります。しかし物忘れをしたということ通常自覚し、あとから思い出すことができます。しかし病的な物忘れでは、物忘れをしたということ自体を完全に忘れて思い出せなくなります。認知症では病的なものの忘れにより日常生活や社会生活に支障をきたします。

認知症と、アルツハイマー病とは同じなのですか？

認知症の原因としてアルツハイマー病がよく知られていますが、それ以外にも認知症状をきたす病気はたくさんあります。ある特定の神経細胞が徐々に障害を受け脱落してしまう病気をひとまとめにして神経変性疾患といいますが、アルツハイマー病は神経変性疾患のうち認知症をきたす代表的な病気の1つです。

認知症の検査はどんな検査がありますか？

画像診断としては頭部 CT 検査、MRI 検査を通常行います。また 3D-SSP 法を用いた SPECT（脳血流シンチ）検査は認知症の早期発見に有用な画像検査で、アルツハイマー病を鋭敏にとらえることができます。さらにレビー小体型認知症の診断に有用な DAT スキャンも可能です。

診察や問診にはどれくらい時間がかかるのですか？

初診の診察時間は最低 30 分はかかります。詳しい問診と、日付や場所、計算や記憶などの認知症のスクリーニングのテストを行います。さらに、パーキンソン症状などの神経症状を伴っていないか神経内科的な診察を詳しく行います。

認知症はなおりますか？

残念ながら、アルツハイマー病や脳血管性認知症、レビー小体型認知症などの認知症は完全に治す薬や治療法はありません。そのため外来では、出来るだけ正常な老化に近づけ進行を遅らせるように認知症薬の服用や生活習慣病のコントロール、介護の工夫などについてアドバイスしています。

認知症ではどのような症状が出ますか？

認知症の症状には中核症状として記憶の障害、日付や場所がわからなくなるといった見当識障害、計算障害、言語障害、理解の障害などの認知機能障害が出現します。

アルツハイマー病の記憶障害は、比較的近い記憶（近時記憶）が障害されるのが特徴です。5 分ほど前のことをすぐに忘れてしまうため、聞いたばかりのことを何度も聞き返すことが多いですが、昔の古い記憶は保たれています。病初期には、質問に対してうまく取り繕うため気づきにくいこともあります。

それ以外には、周辺症状として幻覚や妄想、不安、うつ症状などの心理症状や攻撃性、不穏、興奮、脱抑制などの行動異常が出現することがあります。

認知症としてはアルツハイマー病以外にはどんなものがあるのですか？

日本で多いのは、アルツハイマー病と脳血管性認知症です。また幻覚・幻視を特徴としたレビー小体型認知症が 3 番目に多いといわれています。

それ以外にも脳腫瘍や慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症などがありますが、手術で症状が改善する可能性があります。また、ビタミン欠乏、甲状腺機能低下などの内分泌疾患、てんかん発作なども原因となることがあります。

画像検査だけで診断できるのですか？

認知症をきちんと診断するためには、詳しい問診や診察、他の疾患の除外のための各種検査が重要です。

認知症の治療としてはどんなものがありますか？

現在、代表的な認知症であるアルツハイマー型認知症に対しては、国内では保険適応のある薬剤が 4 種類あります。また、不安や興奮などの周辺症状に関しては、少量の向精神薬や抑肝散という漢方薬を使用することもあります。内服薬の効果として、認知症になってから苦手になっていたこと（たとえば、トイレに一人でいけない、部屋の掃除をしなくなった、習い事をやめたなど）ができるようになるなど、明らかな効果が実感できる場合もありますが、すべてのケースで当てはまるわけではありません。薬の効果には限界があり、認知症に適応のある内服を処方してもらっただけでは解決できない様な問題も多々あります。

心臓について一緒に勉強してみませんか？ 心臓病教室

心臓疾患は、一生上手に付き合っていくことが必要です。そのためには、自分自身の身体の状態や付き合い方をよく知る事が大切です。

松下記念病院では、患者さまの自己管理の知識修得の場として、心臓病教室を開催しています。患者さまやご家族、心臓病の有無にかかわらず、関心のある方もご参加いただけます。

【心臓病教室】

- 毎週木曜日 14:00～14:45
- 講義内容 16項目を週代わりで実施
(心臓病、薬、生活指導、リハビリなど)
- 講師 医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士など
- 会場 松下記念病院2階 講義室
予約不要
参加費無料

心臓について一緒に勉強してみませんか？
心臓病教室 2016年 春号

5月

- 19日(木) 心臓病検査 検査 坂口
- 26日(木) ストレスと心疾患 臨床心理士 前原
- 2日(木) 日常動作の負担 リハビリ 船野
- 9日(木) 高血圧 循環器内科 三木
- 16日(木) 血圧の薬 薬剤師 神島
- 23日(木) 心臓リハビリ 循環器内科 川崎
- 30日(木) 生活指導 看護師

6月

どなたでもお気軽にご参加ください。
予約は**不要**です。
参加費用は**無料**です。
※講師都合により講師内容が変更になる場合があります

木曜日 14:00～14:45
場所: 病院2階 講義室

一緒に学びませんか？

糖尿病教室

～糖尿病の基本から日常生活の過ごし方まで～

内容は院内の
ポスター掲示にて
ご確認ください

医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士、歯科衛生士が週代わり(1回あたり講師2名)で講義を行います。

仲間とともに学ぶ場は、生活上の工夫を情報交換する場にもなります。

患者さまやご家族、糖尿病の有無にかかわらず関心のある方や勉強しておいて欲しい方にぜひお勧めください。

【糖尿病教室】

- 第1週～第4週 水曜日 14:00～15:00
- 会場 松下記念病院 2階 研修室
予約不要
参加費無料

一緒に学びませんか？
糖尿病教室
～糖尿病の基本から日常生活の過ごし方まで～

第1週～第4週 水曜日
14:00～15:00
松下記念病院 2階 研修室

※ 参加費用は無料です。
※ 当院オリジナルのテキストを初回にお渡しします

第1週：糖尿病のことを知ろう
～日常生活から検査まで～ (医師、検査技師)

第2週：あなたの体を守るために
～足や食事の注意点～ (看護師、管理栄養士)

第3週：糖尿病を治すために
～運動とお薬について～ (理学療法士、薬剤師)

第4週：糖尿病とうまく付き合うために
～外食と歯のケア～ (管理栄養士、歯科衛生士)

糖尿病に関心をお持ちの方、どなたでもお気軽にご参加ください。(ご予約不要)

お問合わせ: 松下記念病院 医事課
06-6992-1231 (代表)

新入医師紹介

今年度より当院で新しく勤務する先生を紹介します。



糖・内分泌内科

おかだ ひろし
岡田 博史

丁寧かつわかりやすい説明を心がけ患者さまとご家族に寄り添う医療を提供できるよう努めます。何でもお気軽にご相談ください。



糖・内分泌内科

よしむら たかし
吉村 尚

糖尿病は生活習慣病であり、常日頃から食事や運動などに気を付けなければいけない病気です。生活に密接した病気なので、患者さま一人ひとりに一生懸命向き合うことが大切だと思います。



呼吸器内科

たにぐち りゅうすけ
谷口 隆介

はじめまして、呼吸器内科 谷口隆介です。生まれてから 29 年ずっと滋賀と京都でしか生活をしていなかったの、大阪で仕事ができることがすごく楽しみです。まだまだ若造ですが、少しでも皆さまのお役に立てるようにがんばります。



消化器内科

やまぐち かつとし
山口 勝利

今年 4 月より松下記念病院消化器内科に勤務することになりました。若輩者ですが、患者さまとのコミュニケーションを大事にし、日々患者さまに喜んでいただけるような医療を展開してまいります。よろしくお願いします。



消化器内科

たけむら けいすけ
竹村 圭祐

より良い診療が患者さまに提供できるように日々精進していきます。



循環器内科

さかい ちえこ
酒井 千恵子

近年増加する心血管疾患、心不全、不整脈をはじめとした多様な循環器系疾患に対し、各領域の専門医と連携を取りながら診療していこうと考えています。患者さまの目線に立った安心できる医療の提供をめざします。



外科

たけした ひろき
竹下 宏樹

地域の患者さまに高度な医療を提供できるようにがんばってまいります。



外科

ただ ひろゆき
多田 浩之

院内各科及び近隣の医療施設と積極的に連携を行いながら、患者さまにわかりやすく、安心できる医療を提供できますように日々努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



循環器内科

しろた
城田 あゆみ

市中病院・大学病院での勤務を経てたくさんの患者さまと向き合い研鑽を積んできました。皆さまにあたたかく適切な医療を提供できるよう日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



外科

ふかみ ともゆき
深見 知之

患者さまの声に耳を傾け、思いやりを持った対応を心がけ、相談しやすい身近な存在になればと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。



神経内科
しのもと まきこ
篠本 真紀子

神経内科には脳梗塞などの急性疾患から、認知症やパーキンソン病などの慢性疾患まで多様な疾患があります。それぞれのペースに柔軟に対応し、患者さま一人ひとりのニーズにも応えられる広い目線を持った診療を心がけていきたいと思っています。精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



整形外科
いまい かん
今井 寛

専門は足部、足関節、膝関節、スポーツです。現在、日本パラ陸上競技連盟の医事医員として国際大会に帯同しています。変形性膝関節症や外反母趾などの下肢の慢性疾患およびスポーツ障害でお困りの際は是非、外来にお越しください。



小児科
きどわき さとし
木戸 脇 智志

微力ながら地域の小児医療に貢献できるようがんばりたいと思います。よろしくお願いいたします。



小児科
こにし たすく
小西 亮

患者さま、ご本人はもちろん、ご家族さまにも真摯に向き合い、地域の小児科診療に携わっていききたいと思っています。アレルギー分野に興味があり、食物アレルギー、喘息やアトピー性皮膚炎などご相談いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。



産婦人科
あきやま まこと
秋山 誠

患者さまの病状に応じ、満足していただけるような医療をめざし努力していききたいと思っています。何かありましたらお気軽にご相談ください。



産婦人科
すがはら たくや
菅原 拓也

産科、婦人科、それぞれお産、疾患等と患者さまが向き合えるよう、診療させていただきたいと考えています。皆さまにお力添えできるよう日々精進していききたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



泌尿器科
いなば みつひこ
稲葉 光彦

当院泌尿器科では短期間の間に複数の医師交代があり、患者さまには多少ご迷惑をおかけすると思われます。診療に関しては、高度の医療レベルをもち、地域に貢献する泌尿器科をめざしていきたくておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



腎不全科
かわしま あやか
川嶋 彩花

新しい病院で分からないことがたくさんですが、一生懸命がんばります。患者さまの立場にたった医療を提供できるように努めます。



緩和ケア内科
こいし やすし
小石 恭士

がんの治療が困難となった患者さまのからだの苦痛（痛み、吐き気、呼吸苦など）やご家族も含めたこころの苦痛（不安、孤独感など）を和らげ、その人らしく穏やかな時間がすごせるような治療・ケアを行います。また症状が和らげば在宅復帰もめざします。



緩和ケア内科
あさり けんじ
浅利 建吾

チームワークと笑顔を大切にし、ベッドサイドでの関わりや時間を大事にしながら、患者さまやそのご家族が、緩和ケア病棟での毎日を安心して過ごしていただけるよう尽力していければと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

「医療連携センター」が2016年4月より

「患者支援連携センター」

と名称を改めてスタート

患者さまが安心して医療を受けられるためには、入院早期から退院後まで継続した支援が大切になります。当センターでは、あらたに「入退院支援」に携わることによって「患者さま支援」に重点を置いた、取り組みを考えています。

●入退院支援 患者さまの入院が決まった時から患者さま一人ひとりに・・・

- ・入院前に、入院に関する質問や手術への質問・不安に思うこと等、より詳しく担当看護師が説明することによって様々な問題や不安の軽減に努めています。
- ・入院当初から退院まで一貫したサポートを行うことにより、安心で安全な入院生活を過ごしていただけます。

『患者支援連携センター』では医師1名・看護師7名・医療ソーシャルワーカー4名を含め25名で対応しております。どうぞお気軽にお声かけください。

健康 コラム

食中毒予防のための衛生管理

食中毒予防の三原則は、『付けない(清潔)・増やさない(迅速・冷却)・やっつける(加熱)』です。食中毒は夏に発生するイメージがあるかもしれませんが、1年を通じて発生します。生ものの取り扱いだけでなく、調理器具や手の汚染などさまざまなことが原因となり食中毒をおこす可能性があります。



家庭で出来る食中毒予防のポイント

①買い物は	●新鮮なものを選ぶ。消費期限を確認して購入する。 ●肉汁や魚の水分が漏れない様ビニール袋にそれぞれ分けて持ち帰る。
②保存する時は	●持ち帰ったらすぐに冷蔵庫や冷凍庫で保存する。(冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫は-15℃以下が目安ですが、菌が死滅するわけではないので早めに使い切る)
③料理する前に	●手を洗い、きれいな調理器具を使うこと。包丁やまな板は、魚や肉を切った後に熱湯で洗う(できれば肉用・魚用・野菜用と別々にすると安全)など。
④調理する時は	●タオルやふきんは乾いた清潔なものに交換し、手を洗う。十分に加熱をする(中心温度75℃以上1分)。 ●電子レンジはレンジ用容器で、熱の伝わりにくいものは時々かき混ぜるなど。
⑤食事をする時は	●手を洗う。 ●室温に長く放置しないなど。
⑥残った食品は	●残った食品を扱うときにも手を洗い、きれいな容器で保存し、再加熱するなど。

